

# THE DAILY JESUS NEWS

An ATJ Ministries Publication by John Wright

## デイリージーザスニュース #025

### イエスの宣教準備の30年

#### ヨハネによるキリスト賛美の説教の抜粋

ヨハネ 1.15; MT 3.4-10 (並行テキスト: MK 3.5-6; LK 3.7-10)

=====

「ヨハネは絶えずイエスのことを証しし、大声で叫んで言った。「わたしが『わたしの後から来られる方は、わたしを完全に超えた方です。わたしより先におられたからです』と言ったのは、この方のことです。」

MT 3.4 ヨハネの服はらくだの毛でできており、腰には皮の帯を締めていた。彼の食べ物はいなごと野蜜であった。 5 エルサレム<sup>MTとユダヤ全土、ヨルダン川全域</sup>から、さまざまな人々が流れ出て彼のもとにやって来た。 6 彼らは自分の罪を告白していたので、ヨルダン川でヨハネからバプテスマを受けていた。

7 しかし、多くのパリサイ人やサドカイ人が、バプテスマを施しているところにやって来るのを見て、ヨハネは、自分のところにやって来た群衆に向かって言った。「まむしの子らよ。だれが、あなたがたに、迫り来る神の怒りからのがれよと告げたのか。 8 あなたがたは、悔い改めにふさわしい実を結びなさい。

9 「また、あなたたちは、『私たちにはアブラハムが父である』などと言ってはならない。よく聞きなさい。神はこれらの石からでもアブラハムの子を起こす力を持っておられる。 10 斧はすでに木の根元にしっかりと置かれており、良い実を結ばない木はみな切り倒されて火に投げ込まれるであろう。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = MT、マーク = M、ルーク = L、ジョン = J、使徒行伝 = A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書の書を識別します。さらに、**赤い斜体はイエスの言葉を示します。**

#### コンテキストダイジェスト

位置	ヨルダン川、アイノン付近
時間	西暦29年4月 - イエスが宣教を始める前年

の生涯の段階	第二段階：宣教の準備の30年間
第5章	の宣教のために人々を準備する
セクション #025	のキリストを讃える説教の抜粋

本文注: 今日の朗読は、共観福音書の筆者 (マタイ、マルコ、ルカ) が福音書を書く際に使用した「Q」という書面資料に初めて触れる機会となります。(「Q」については[DJN #005](#)の解説で紹介しました [HYPERLINK "http://www.atjministries.org/?m=20120105"](http://www.atjministries.org/?m=20120105)。) 特に、イエスの教えを強調した MT と LK の著作に「Q」が見られます。

私は、この朗読のベーステキストとしてMTを選びました。MT 3.7Bのヨハネの「まむしの子らよ」という言葉から10節の終わりまで、MTとLKの言葉は一語一語同じです。両者とも共通の情報源を引用していました。学者たちはこの情報源文書を「Q」と呼んでいます。私たちは、今後の朗読で、DJNのテキストにあるQを時々指摘します。

#### コメント：

今日の朗読は、ヨハネの宣教について述べた3つの箇所のうちの2番目です。前回のDJNで述べた、(1) 証人としての役割、(2) ユダヤ人に悔い改めのしるしとして浸礼を受けるよう呼びかけたというヨハネのユニークな点に加えて、今日はヨハネの3つの大きな特徴について見ていきます。これらを、すでに述べた2つの特徴に加えて、ヨハネの。大きな性格特性のリストを作りながら、ここで見ていきます。

(3) ジオンは極端な人間でした。今日では「強迫性障害」タイプと呼ばれるでしょう。ジオンは強い個性の持ち主でした。荒野で大きな声で説教しました。粗末な服を着て、質素な野生の食べ物を食べることに満足していました。人生の大半を砂漠で一人で過ごし、それが社会の期待や規範を無視する態度に表れていました。これらすべてが彼の4番目の特徴となって現れました。

(4) ヨハネは恐れを知らず、人々の面と向かって、真の悔い改めが必要であると宣言しました。率直なメッセージで人々を遠ざけようとは考えもしませんでした。サンヘドリンの自慢のパリサイ派とサドカイ派が彼の話を聞きに来たとき、彼は国の尊敬される指導者たちと対決することをためらわず、彼らを「まむしの子ら」と呼びました。彼はヘロデ・アンティパスによって、自分の兄弟の妻であるヘロディアとの結婚は違法で、罪深く、姦淫であると繰り返し宣言したために投獄されました。ヨハネは神以外を恐れませんでした。

その結果、ヨハネは真実を語る者として大いに尊敬されるようになりました。彼は神の人として非常に高い信頼を得ていました。人々はすぐに彼が神の正真正銘の預言者であると確信しました。なぜなら、神を畏れるヨハネは、他人を叱責することに全く利己心を持っていなかったからです。ヨハネを探し出して彼のメッセージを聞くために、途切れることなく人々が遠くまでやって来て、多くの人々がヨハネから浸礼を受けて公に悔い改めました。神は、準備のできた預言者を強力な方法で用いて、人々がイエスを信じて従うように備えさせていたのです。

(5) ヨハネは人々の前で恐れを知らないと同時に、来るべきメシアの偉大さを高く高く見据えていました。ヨハネはメシアの先在を信じ、したがってその卓越性を信じていました。イエスはヨハネより6ヶ月後に生まれましたが、預言者は次のように宣言しました。

「私の後に来る方は、私より先に存在していたので、私を完全に超えています。」

そして、私よりもはるかに力のある方が私の後に来られます。私はその方の履物のひもを<sup>M</sup>かか<sup>L</sup>がんで<sup>L</sup>解く値打ちもありません。MT運ぶこともできません。」(DJN #026)

としての心と精神においてヨハネをはるかに超えていたため、ヨハネは土の上につつ伏せになって、救世主のサンダルの底の土に触れることさえできませんでした。ヨハネはイザヤの預言の中に自分のアイデンティティを見出しましたが、イザヤの中に救世主の栄光も見出しました。永遠の王の前で永遠に謙虚になるのに十分なほどです。ヨハネにとって、イエスの偉大さと栄光は、すべての被造物の中で他のすべてを凌駕していました。預言者は、他の誰にも宣言できないほど深い悔い改めを経て、真の謙遜さを身につけました。

ジョンは本物であり、誰もがそれを知っていた。

応用：

悔い改めは、まったく異なる行動につながる完全な心の変化です。何かが真実であると確信し、行動を必要とするようになることです。たとえば、幼いころ、私は灯油を水だと思って口に含んだことがあります。口の中に灯油が入ったときの味と刺激で、すぐに灯油を飲むという考えが変わり、勢いよく吐き出しました。灯油は水だという考えに再び変わることはなく、私の悔い改めは永久に続きます。

問題は、私たちが罪と罪深さを当然のこととして受け止めていることです。それは私たち罪人にとって普通の生活です。ヨハネのように、メシアの顔に神の栄光を見たときに初めて、私たちは罪において神にまったく受け入れられない存在であることに気づき始めます。そして、私たちは謙虚さを受け入れ始め、自分自身にもまったく受け入れられないと心から考え始めます。これが私たちの行動の本当の変化が起こるときです。

イエスの偉大さをはっきりと理解する人々は、自分たちが史上最も罪深い人々であると心から信じています。ヨハネはイエスの光の中で自分自身をこのように見ていました。私達もそうすべきです。

悔い改めはまったく新しい考え方です。悔い改めによって生じる行動の変化こそが、ヨハネが呼びかけていた悔い改めの「実り」なのです。神は限りなく善であり、私達は徹底的に罪深いので、悔い改めはイエスに従う人々の避けられない生き方です。イエスに近づきながら、私達がどれだけ変わる必要があるかに気づかないということはありません。

私達自身について、イエスご自身の考え、態度、行動と一致しない新たな事柄を常に認識することは、イエスに従う人にとっては普通のことです。

*あなたが最後に後悔したことは何ですか？*

*あなたは今、何について悔い改めていますか？*

*あなたの悔い改めはどのように実を結んでいますか？*